

団体名  
川越子ども応援パントリー



見守り活動のタイトル：

食支援を通じて家庭と繋がり、孤立を防ぐ

キャッチコピー

子どもたちの未来を共に切り開く！

代表 時野 閏

住所 埼玉県川越市大袋新田662-1

連絡先 [june4000@ymobile.ne.jp](mailto:june4000@ymobile.ne.jp)

団体活動開始：2020年3月～



団体ホームページ



団体フェイスブック

見守り活動の概要

✓食料支援（パントリー/個別宅配） ✓学習支援

●市内の2箇所のお寺を主な拠点として、パントリー、学習支援等を通じて、ひとり親家庭や困窮家庭の見守りを行なっている。会場での口頭のやり取り、LINE、電話、必要に応じて自宅への食品宅配、お寺の部屋を借りての個別相談など。

●「子どもの貧困をなくす」ことを目指して、地元自治体、社協、企業等とも連携しながら、特に支援を要する家庭、子どもに届くような各種、創意工夫を行なっている。

見守りエピソード/ストーリー

パントリー会場はご利用者の皆様や子どもたちと絆を結ぶ緩やかであたたかいコミュニティです。ご本堂と境内を最大限に使い、食品を選択しながらのスタッフとの会話、「お寺カフェ」や「子どもの遊びコーナー」で長居をしてもらってコミュニケーションをはかる工夫など。信頼関係が出来るにしたがい「失業した」「子どもが高校に合格したけど入学金が工面できない」などのご相談をいただけるようになりました。学習教室では頻繁に子どもたちと顔を合わせるので、ご家庭とともに子どもたちの成長を見守っています。

活動写真



## 見守り活動のポイント

- ・単なる食料配布に留まらず、人と人とのつながり、コミュニケーションを大事に。
- ・つながりを深め、ニーズに応える  
学習教室・子どもの居場所「てらこや」を毎週開催。
- ・つながった子どもたちに、各種体験を提供。  
美術館、水族館、古墳、映画館etc…!!

## 見守り活動をはじめた背景

### 【保護者として/市民として/こども政策に関わる立場へ】

- 保育士と保護者双方が加入する団体「川越保育をよくする会」に保護者の立場で参加、会長を務めるなど、子どもに関わる活動を開始（2004年頃から）。
- 同時に地元自治体の審議会委員（川越市次世代育成支援対策地域協議会、川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会など）となり、こども政策に携わるようになる。
- 第38回全国保育団体合同研究集会埼玉集会（2006年）の実行委員として1年間かけて準備の中で保育関係者とネットワークを構築。大会終了後の浅井春夫氏（実行委員長、当時立教大学教授）記念講演で「子どもの貧困」について初めて知り、心に刻む。

### 【なくそう！「子どもの貧困」川越シンポジウムの開催】

- 2018年度川越市が子どもの貧困調査（「子どもの生活に関する実態調査」）を行うことになり、「行政任せにせず、市民として共に考えよう」と審議会の仲間呼びかけ、シンポジウムの実行委員会を立ち上げる。1年間の準備の過程でたくさんの市民と知り合う。
- 2019年9月、市の子ども家庭課との協働事業としてシンポジウム「なくそう！『子どもの貧困』川越シンポジウム」を開催。有料参加者240名で成功。

### 【2020年3月～フードパントリー開始】

市内の最明寺、本応寺を会場として、2020年3月、4月（全国一斉休校時）に3回の緊急パントリーを実施。延べ170世帯へ食料配布。その後、両寺でパントリー定期開催へ。

## 対象／頻度／内容

### （1）フードパントリー事業

- 対象世帯：185世帯（2023年1月現在）  
「ひとり親家庭等医療費受給者証」「児童扶養手当受給者証」  
「生活保護受給証」のいずれかをお持ちの子育て中の方、その他  
当会が必要と認めた方
- 場所/頻度  
最明寺パントリー（奇数月）  
本応寺パントリー（偶数月）  
※ほかにプチパントリーを月に1～2回程度、必要に応じて緊急パントリーなど

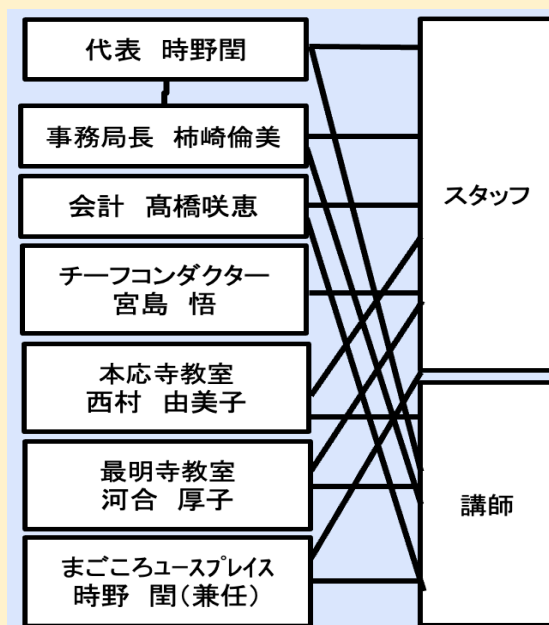
### （2）学習教室・子どもの居場所「てらこや」「まごころユースプレイス」

- 対象者：パントリーご利用家庭や同程度の家計状況のご家庭の小中高生、不登校や軽度の障害などで学びの支援が必要な子など困難を抱える子を可能な限り受入れ。「ユースプレイス」では高校生以上の若者も受入れたい意向。
- 場所/頻度  
最明寺教室：毎週月曜日の夕方2時間程度  
本応寺教室：毎週木曜日の夕方2時間程度  
まごころユースプレイス：毎週火曜日の夕方2時間程度  
（サービス付き高齢者向け住宅「まごころレジデンス」地域交流室で開催）

## 見守り活動において抱えている課題

- ・団体の基盤の強化と安定財源作り：法人化して財政基盤を整えながら執行部の活動の自由度を上げる
- ・スタッフの専従支援や専門職の配置：役割分担を進めながらそれぞれのパートの習熟化、また場合によっては専門職を置いて事業強化？
- ・新規事業の検討：これからどういう方向に事業を展開していくか？相談事業や訪問支援など親の支援？あるいは若者の居場所や就労支援？

## 見守り活動を行う組織体制図



## 他団体との連携

### 【自治体】

#### ●川越市こども家庭課

ご利用対象者（児童扶養手当受給者）への情報提供、緊急度が高い対象者の直接の紹介

#### ●川越市教育委員会教育財務課

就学援助受給者をパントリー利用対象とした場合は情報提供に協力するとの決定（実際には受給者が多すぎるため未だ利用対象としておらず）

### 【社会福祉協議会】

#### ●川越市社会福祉協議会

食品・日用品・協賛金など（市民からの寄贈）のご提供、地域の要支援家庭・お子さんのご紹介

#### ●埼玉県社会福祉協議会

物品等のご提供やご支援企業とのマッチング

### 【商工会議所、埼玉県信用金庫お客様会】

●観光物産館「蔵里」を中心とした「蔵里おやつステーション事業」として30社以上の企業様より食品や日用品の定期提供（毎月1回）

### 【農産物直売所、生産者、JA】

●伊佐沼農産物直売所より毎月のパントリーに際して農産物のご提供

●複数の生産者様より毎月のパントリーに際して農産物のご提供

●JAいるま野本店、各支店より、年に一度のSDGs活動として農産物やフードドライブ食品のご提供

### 【その他】

●複数の企業様や医療法人より食品のご提供、現金の寄付など

●複数のスポーツチームから型落ちユニフォームの提供やスポーツイベントへのお誘い

●塾代支援をしているNPOと提携して対象児童の推薦や社会に出る学齢の子ども向け「テーブルマナー教室」開催

●お寺で行っている活動（ピンクリボン、LGBTQ理解促進など）に子どもたちが触れる機会をあえて作る

●市内スクールソーシャルワーカーへ「子どもの居場所」としての認知と受け入れ